

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、十勝川水系においても、日本の重要な食料供給地である十勝圏の既存農業施設の治水活用や被害軽減のための避難等の対策を含む事前防災対策を進める必要があり、国管理区間においては、音更川、札内川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の平成28年8月洪水と同規模の洪水に対して、堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

十勝川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～我が国を代表する食料生産基地「十勝」を洪水から守るための治水対策の推進～

- 十勝川では、H28.8洪水や気候変動の影響を踏まえ目標流量を見直しするとともに、流域治水を踏まえた治水対策を河川整備計画に位置づけたところであり、引き続き、我が国を代表する食料生産基地である流域の特徴を踏まえ、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、道、市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】 十勝川流域の人口・資産が集中する中流域での重大災害の発生を未然に防ぎ、かつ、内水被害軽減のため、水位低下を目的とした河道掘削及び排水機場整備等を主に実施するとともに、公園を活用した雨水貯留施設機能強化及び下水道雨水管の整備のほか備蓄資材庫整備等を実施予定。
- 【中期】 十勝川中流部の浸水被害を防ぐため河道掘削及び洪水調節施設としてダム再開発を主に実施するとともに、二線堤の整備検討及び内水マップの作成等を実施予定。
- 【中長期】 支川下流部の浸水被害を防ぐため、河道掘削等を主に実施し、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策及び被害対象を減少させる対策を引き続き実施し、流域全体の安全度向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の人口・資産が集中する十勝川中流部を守る河道掘削及び堤防整備	帯広開発建設部 十勝総合振興局	十勝川中流部		
	十勝川左岸圏域及び右岸圏域の市街地等を守る河道掘削及び堤防整備	帯広開発建設部 十勝総合振興局	利別川等		
	十勝川右岸圏域の市街地等を守るダム再開発	十勝総合振興局			佐幌ダム高上げ
	帯広市街地を守る排水機場整備	十勝総合振興局	排水機場整備		砂防設備の整備
	市街地等を土石流から守る土砂災害対策	帯広開発建設部 十勝総合振興局			
	雨水貯留に活用でき、湛水被害の軽減を図る食料安定生産のための農業施設整備	帯広開発建設部 十勝総合振興局	上士幌北地区・富秋士幌川下流地区・瓜幕地区	新川二期地区、芽室川西地区、十勝川左岸二期地区	
	山地災害から流域を守る治山対策	北海道森林管理局 十勝総合振興局	治山施設等の整		
	森林の水源涵養機能の維持・向上のための森林整備・森林保全対策	北海道森林管理局 十勝総合振興局、市町村 森林整備センター 等	植栽・間伐などの森林整備を実施		
	津波に対する背後地の浸水被害を防止し民生の安定を図る津波・高潮対策(海岸整備)	十勝総合振興局	豊頃海岸大津地区	公園を活用した雨水貯留施設機能強化等(士幌町)	農業用排水路等の整備(豊頃町)
	河川への急激な雨水流出を抑制する流出抑制対策	上士幌町 豊頃町 等			
	浸水被害の軽減を図り市街地を守る下水道浸水被害軽減対策	帯広市 等	下水道雨水管の整備(帯広市)		二線堤等の整備検討(新得町)
	被害対象を減少させるための対策	新得町			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	早期復旧に備えた対策	帯広開発建設部 十勝総合振興局 中札内村 等	備蓄資材庫整備(中札内村)	まるとまちごとハザードマップ整備促進	内水マップの作成(音更町)
	被害軽減対策	池田町 音更町 等			
	・水害タイムライン ・市町村防災訓練への協力 ・防災気象情報の利活用促進	気象台			
	安全な運行の確保	北海道旅客鉄道(株)釧路支社	橋梁補修、合同巡視等		
グリーンインフラの取組	・自然環境の保全・復元などの自然再生 ・帯広地区かわまちづくり ・十勝川中流地区かわまちづくり ・治水対策における多自然川づくり ・自然環境が有する多様な機能活用の取り組み	帯広開発建設部	自然環境の保全・復元などの自然再生	帯広地区かわまちづくり	十勝川中流地区かわまちづくり
			治水対策における多自然川づくり	自然環境が有する多様な機能活用の取り	
	・河道の連続性	十勝総合振興局	河道の連続性		
	・公園を活用した雨水貯留施設機能強化等	鹿追町 士幌町	公園を活用した雨水貯留施設機能強化等		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【事業費】

■事業規模(※十勝川水系全体)

○河川対策

全体事業費 約3,119億円

対策内容 河道掘削、堤防整備、浸食対策、水防拠点、既存ダムの有効活用等

○砂防対策

全体事業費 約259億円

対策内容 砂防関係施設の設備 等

○下水対策

全体事業費 約16億円

対策内容 下水道雨水管等の整備 等

○海岸対策

全体事業費 約23億円

※1：国・北海道の河川整備計画の残事業を記載

※2：国・北海道の砂防事業の残事業費を記載

※3：各市における下水道事業計画の残事業費

(雨水関連)を記載

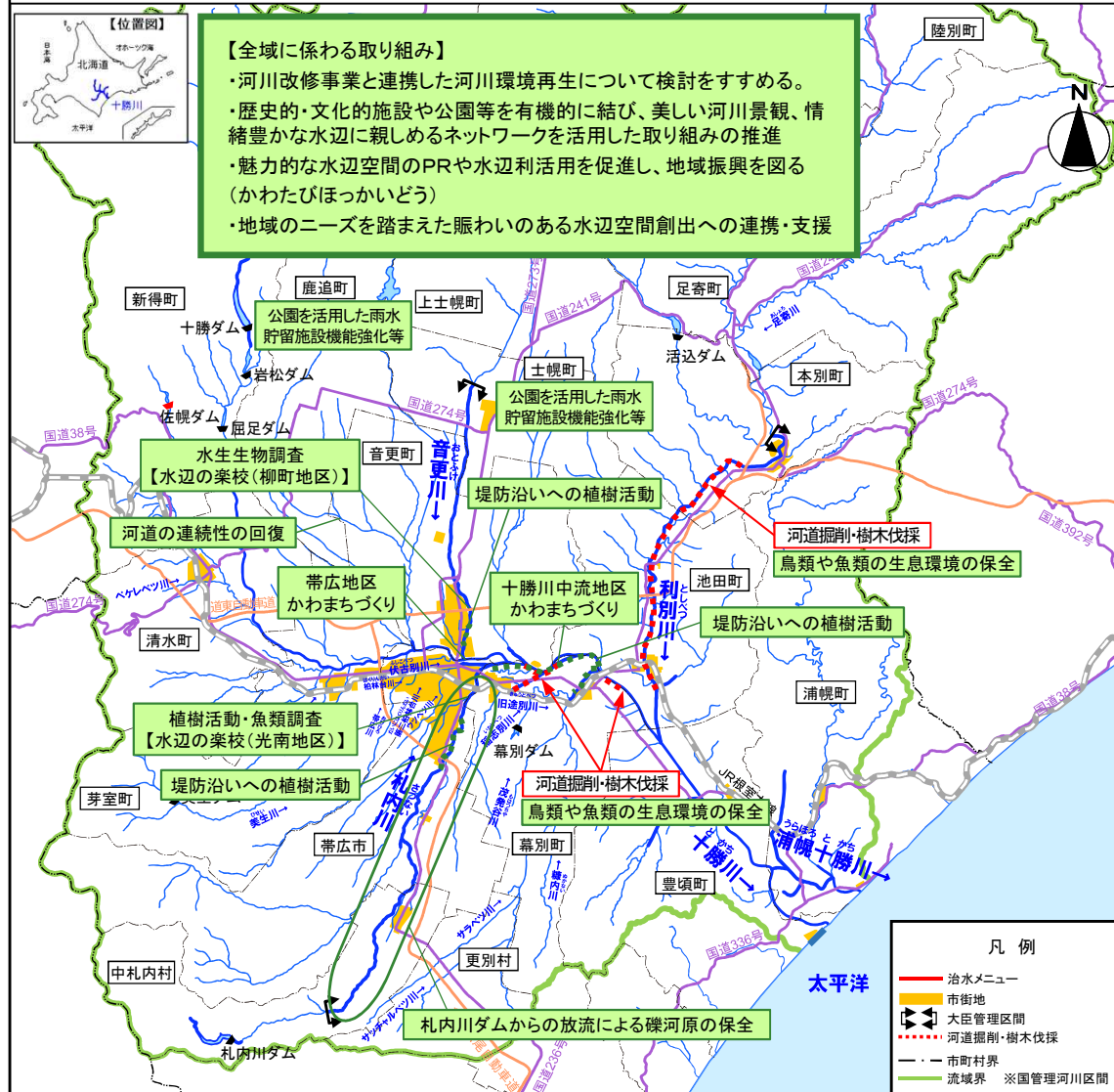
※4：北海道における海岸事業の残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

十勝川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

●グリーンインフラの取り組み 『豊かな自然環境を活かした地域振興、多様な動植物の保全』

- 十勝川流域は、大雪山国立公園、阿寒国立公園、日高山脈、襟裳国定公園に囲まれているなど、豊かな自然環境に恵まれており、多様な自然景観や市街地、温泉、周辺農地等と調和した雄大な河川景観を有していることから、河川利用も盛んであり、流域の住民にとって愛着あるかけがえのない水辺として親しまれている。
- 十勝川水系札内川は、礫河原を必要とした多種多様な動植物が生育している。そのため、平成17年頃までの礫河原の状態を概ね20年で礫河原の再生を図り、ケショウヤナギ生育環境の保全や、札内川特有の景観の保全に寄与するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



■グリーンインフラメニュー

●自然環境の保全・復元などの自然再生

- ・札内川ダムからの放流による礫河原の保全
- ・河道の連続性の回復

●治水対策における多自然川づくり

- ・生物の多様な生息・生育環境となる樹林帯形成のため、堤防沿いへの植樹活動
- ・鳥類や魚類の生息環境の保全

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・かわまちづくり
- ・水辺の賑わい空間創出

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み

- ・小中学校などにおける河川環境学習や植樹活動、環境調査等の取り組み
- ・水辺の楽校を活用した環境学習
- ・公園を活用した雨水貯留施設機能強化等



十勝川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～我が国を代表する食料生産基地「十勝」を洪水から守るための治水対策の推進～

○十勝川流域の資産・人口が集中する中下流部における本川河道掘削のR7完了にともない、十勝川中流部において整備計画目標流量をHWL以下で流下させることができ、幕別町市街地の浸水被害が減少。

○利別川池田市街地における河道掘削のR3完了にともない、池田市街地において整備計画目標流量をHWL以下で流下させることができ、市街地の浸水被害の減少が可能。

短期整備(5か年加速化対策)効果：河川整備率 約56%→約63%

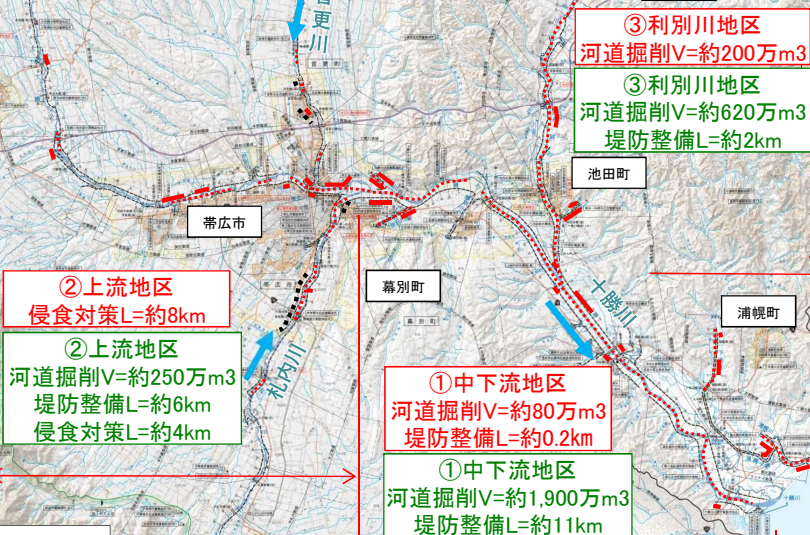
※整備計画改定(R5.3)前の整備計画河道に対する整備率は約90%→約97%である。

※河川整備率とは、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことができる断面を確保している国管理区間の割合 ※浸食対策はR2以降の残延長に対する進捗

※地震津波対策として、河川構造物の耐震化、樋門の自動化、遠隔操作等を調査検討中

実施箇所・対策内容

5か年加速化メニュー：赤字
整備計画残メニュー：緑字



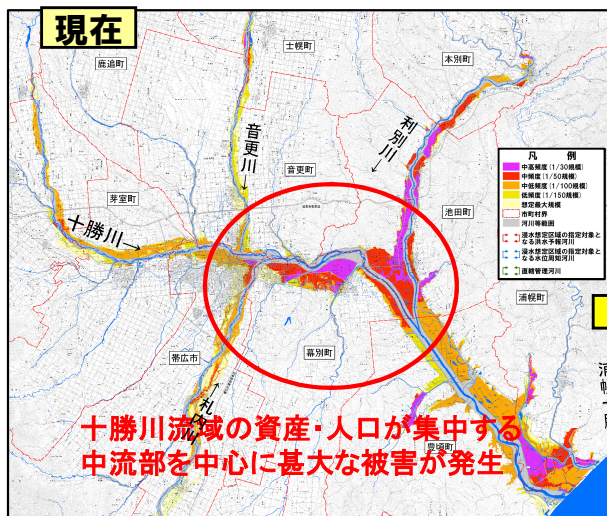
維持修繕、
応急対策等の実施

※実施内容・数量については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

【短期整備完了時の進捗】

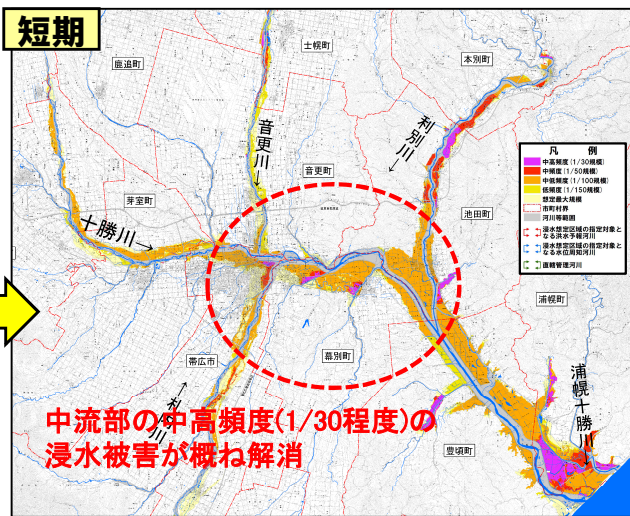
①中下流	河道掘削	4%
	堤防整備	2%
②利別川	河道掘削	24%
③上流	浸食対策	85%

現在



十勝川流域の資産・人口が集中する
中流部を中心に甚大な被害が発生

短期



中流部の中高頻度(1/30程度)の
浸水被害が概ね解消

※国直轄事業の実施によるものである。

※基本方針改定(R4.9)前、整備計画改定(R5.3)前のリスクマップ。

※外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。

対策内容	区間	工程		
		【5か年加速化対策】 短期(R3～R7年度)	中期 (R8～R12年度)	長期 (R13～R34年度)
河道掘削	①中下流	R4	4%	
	②上流			
	③利別川			
堤防整備	①中下流		24%	
	②上流		2%	
	③利別川			
浸食対策	②上流		85%	

R7末(短期)において、
・十勝川中下流
・利別川(池田市街地)
については戦後最大対応完了。

※スケジュールは今後の事業進捗
によって変更となる場合がある。

北海道では全国でも特に
気候変動の影響が大きく、
更なる対策を推進

十勝川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～我が国を代表する食料生産基地「十勝」を洪水から守るための治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：63%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



6市町村

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 24箇所
（令和4年度実施分）
砂防関連施設の
完成箇所 1施設
（令和4年度完成分）
※施工中 2施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市町村

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 176河川

（令和4年9月末時点）

内水浸水想定
区域 1団体

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 442施設
土砂 3施設

（令和4年9月末時点）

個別避難計画 10市町村

（令和4年1月1日時点）

被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策

■農業排水路の整備（富秋土幌川下流地区 帯広開発建設部）

本地区では、近年土地利用及び降雨形態の変化による流出量の増加により、排水路の流下断面が不足するとともに、降水時・融雪時にしばしば湛水被害が生じている状況にあります。また、湛水被害は農地のみならず住宅地等にも発生することから、本事業により排水路の整備を行い、農地の湛水被害を解消するものである。

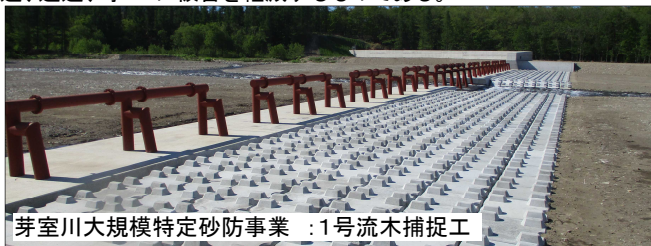


国営かんがい排水事業
富秋土幌川下流地区での排水路整備状況

■砂防施設の整備の整備

（芽室川大規模特定砂防事業 帯広建設管理部）

平成28年に発生した土砂・洪水氾濫等により、人家、道道に甚大な被害が生じた。また、流域内の荒廃が進み渓床にも不安定土砂及び流木が堆積している状況であることから、清水町羽帯地区において降雨により下流へ流出する土砂及び流木について対策施設の整備を行い、人家、鉄道、道道、等への被害を軽減するものである。



芽室川大規模特定砂防事業：1号流木捕捉工

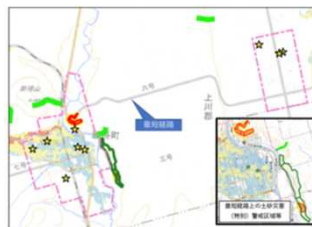
被害対象を減少させるための対策

■立地適正化計画における防災指針の作成（新得町）

新得町は、市街地内に複数の河川が流れていることから、今後においても洪水浸水などの災害リスクを完全に避けることはできないため、防災まちづくりの取組方針を「災害リスクを一定程度受容したまちづくり」として災害リスクの回避と災害リスクの低減に取り組んでいる。



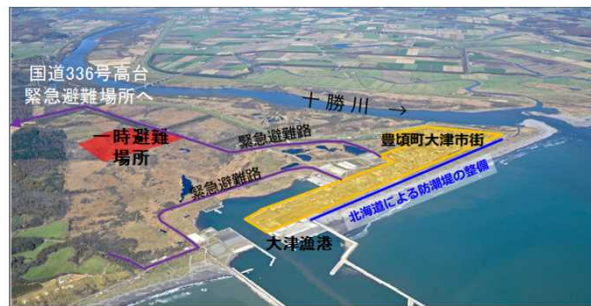
パンケ新得川 洪水浸水想定区域図



パンケ新得川の洪水を想定した避難経路

■一時避難場所の造成（豊頃町）

自治体の一時避難場所の基盤盛土等に河道掘削土を活用。また、町で実施している避難路整備は観光地へのアクセス路としても活用している。



一時避難場所造成箇所（豊頃町）

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

■まるごとまちごとハザードマップ整備促進（池田町）

池田町では、町民の水害に対する危機管理意識向上のため、まるごとまちごとハザードマップの一環として、浸水想定区域内の公共施設等に想定浸水深を示す標識を設置している。



設置事例（コミュニティセンター）

■企業の取り組み

洪水により浸水した箇所に防災壁を設置することによって、堤内地への浸水を防ぐ。

